

玄武岩の玄さんが堅いテーマも楽らかに解説

# 豊田のこころに絆目じゃ！①

## 「コウノトリ育むお米」って？



**玄さん、給食で食べている「コウノトリ育むお米」って、どんなお米なの？**

「おいしいお米とたくさんのお米を同時に育む」のがコウノトリ育むお米づくりじゃ。コウノトリは、何を食べるか知つとるか？ドジョウやカエル、バッタが大好きで、草とかは食べんのじゃ。このお米づくりでは、いろんな工夫をして、コウノトリのえさとなる生きものがいっぱい田んぼになるように農家さんたちが努力しているんじゃよ。

**へえ。農家さんはどんな工夫などをしているの？**

普通のお米づくりでは冬に水をためたりせんが、このお米づくりでは雑草を生えにくくするために、冬に水をためるんじゃ(冬水田んぼ)。冬水田んぼのおかげで、ミジンコなど、目に見えない小

さな生きものや、その生きものを食べる小さなエビ、また、そのエビを食べるドジョウやオタマジャクシなど、たくさん種類の生きものがいっぱいいるんじゃ。

**小さな生きものが食べられて、その生きものが自分より大きな生きものに食べられる仕組みのことを確か、食物連鎖って言うんだよね。**

おつとろつししゃ。よく知つておるな。もつとおもしろい工夫もあるぞ。普通のお米づくりでは6月初めに田んぼから水を抜くんじゃが、このお米づくりでは7月初めに水を抜くんじゃよ。オタマジャクシがカエルになるのが6月の終わりなんじゃが：

そうか、6月の初めに田んぼに水がなくなると、オタマジャクシが死んでしまふけど、7月まで水があれば、コウノトリが大好物なカエルに成長できるんだね。

大正解じゃ。これは中干し延期という工夫じゃ。カエルは、お米づくりを邪魔するカメムシを食べてくれるんじゃ。カエルなどの生きものがお米づくりを助けてくれるから、農家さんたちが草を枯らす薬やカメムシを駆除する薬をまかなくてもしつかりお米づくりができるんじゃ。



カメムシなど、害虫を食べるカエル

**農家さんの努力で田んぼにたくさん生きものがいるようになり、その生きものや自然の力をうまく利用して、おいしいお米ができていくことがよく分かったよ。**

もつとこのお米を食べる人が増えて、もつと作る人が増えて、生きものがいっぱい豊岡になれば、コウノトリも喜ぶし、私たちもうれしいなあ。